

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2012年冬)の結果

当センターでは、2012年冬のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

<ボーナス予想額 >

48.5万円(前年冬比、14,000円減少(△2.8%))

今冬のボーナス予想額は48.5万円となり、前年の受取額(回答者の実績)を14,000円下回る結果となった。減少率は△2.8%で昨冬(△3.0%)よりやや改善するも、厳しさは続いている。冬のボーナスとしては、07年冬以降6季連続の前年実績割れとなった。しかし、過去ワースト2位(1位は02年冬の△6.6%)の記録であった09年冬の△6.1%に比べ、今冬は前年割れの水面下の状況下ではあるが、一昨年に続き3年連続で回復の足取りを示した。

国内の景気は、欧州の債務問題や円高、世界経済の減速などから不透明感が増している。当センターの調査は、県内の給与所得者を対象とした「ボーナスと暮らし向き調査」であるが、全般的に生活の防衛を中心としたやりくりを反映した結果が見て取れる。

<暮らし向きの実感と今後の見通しについて>

直近半年間の暮らし向きに対して今後半年間の見通しは「収入」面では減少傾向、「消費支出」面では縮小傾向、「生活全般」では悪化傾向であることが窺える。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」は8.0%(昨冬7.6%)と昨冬比0.4ポイント増加し、「減りそう」は24.8%(昨冬28.6%)で昨冬比3.8ポイント減少する。また、「変わらない」が67.2%(昨冬63.8%)と3.4ポイント増加し、全体としては依然として厳しい状況が続いている。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位「教育・教養」で、以下「生活費の補填」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。この順位は昨冬と同じである。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.8%、「ゆうちょ貯金」7.5%、「社内預金」4.0%の順となっている。この順位は昨冬と同じである。また、この3項目で全体の96.3%(昨冬98.7%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の1.1%(昨冬0.2%)であり、リスクの伴う金融商品は、低調である。

▽貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位の「住宅関連資金」となった。

▽購入希望上位5品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「くつ」、4位「鞆・ハンドバッグ」、5位「子供服」となった。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「増えそう」は8.0%(昨冬7.6%)で昨冬比0.4ポイント増加し、「減りそう」は24.8%(昨冬28.6%)で昨冬比3.8ポイント減少する。また、「変わらない」が67.2%(昨冬63.8%)と3.4ポイント増加し、全体としては、厳しい状況であることが窺える。

この冬のボーナスは、「増えそう」は8.0%、「減りそう」は24.8%、「変わらない」が67.2%となった。「増えそう」(昨冬7.6%)が昨冬より0.4ポイント増加した。「減りそう」(昨冬28.6%)は3.8ポイント改善した。

また、「変わらない」(昨冬63.8%)は3.4ポイント増加し、「減りそう」から「変わらない」へのシフトが見られる。

また、今冬の「増えそう」と「減りそう」との差(「増えそう」-「減りそう」)は△16.8ポイント(昨冬△21.0ポイント)と、マイナス幅は4.2ポイント縮小している(図表-1,図表-2)。

年齢階層別にみると、「増えそう」は「30歳未満」が15.9%と他の階層に比べて高いが、5年前の07年冬(32.6%)の約半分以下で、「増えそう」の実感は「30歳未満」でも、まだまだ乏しい。

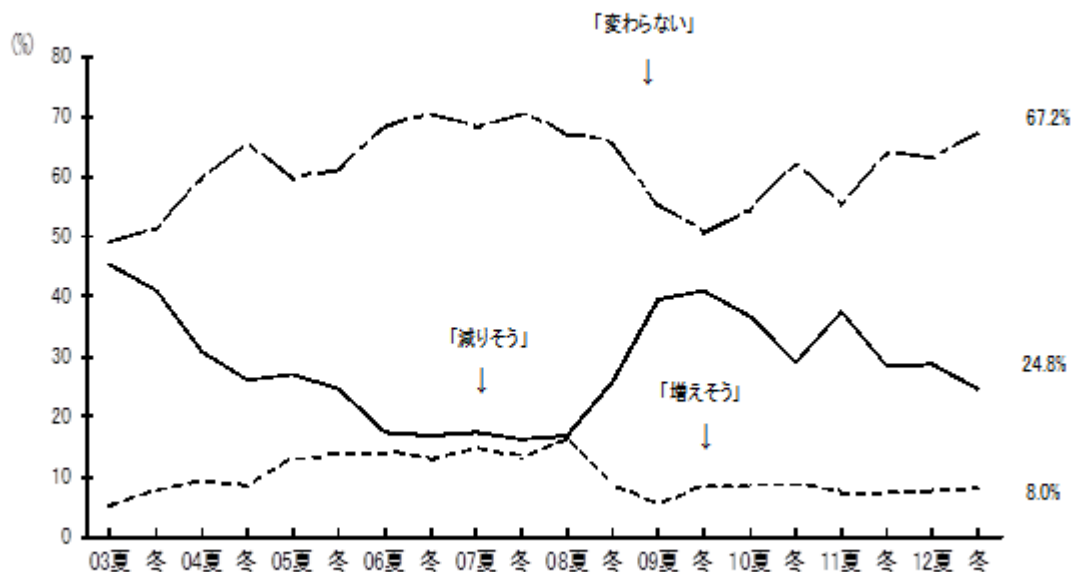
「増えそう」の年齢階層別の特色として、30歳未満の割合が一番高く、続いて30歳代となっている。一方、「減りそう」では、50歳以上が一番高く、続いて40歳代となっている。

なお、ボーナス予定日は、12月上旬が52.4%、中旬26.5%、下旬10.4%、不明10.7%で、約半数以上が12月上旬を予定している。

図表-1 ボーナスの増減予想(対前年比)

		(構成比、単位:%)		
		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
平均	10冬	8.8	29.0	62.2
	11冬	7.6	28.6	63.8
	12冬	8.0	24.8	67.2
30歳未満	10冬	21.3	13.8	64.9
	11冬	16.7	20.2	63.1
	12冬	15.9	12.5	71.6
30歳代	10冬	8.5	26.8	64.6
	11冬	4.6	30.8	64.6
	12冬	9.4	25.9	64.7
40歳代	10冬	6.8	32.8	60.5
	11冬	6.9	29.7	63.4
	12冬	8.3	26.6	65.1
50歳以上	10冬	3.1	37.4	59.5
	11冬	5.9	30.1	64.0
	12冬	2.4	28.7	68.9
注) 不明、無回答を除いた構成比				

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

今冬のボーナス予想額は 48.5 万円となり、前年の受取額(回答者の実績)を 14,000 円下回る結果となった。減少率は△2.8%で厳しさは続いている。

ボーナスの予想額(回答者の平均、税引き後の受取額)は48.5万円で、前年冬比14,000円の減少となった。減少率は△2.8%となった。冬のボーナスとしては07年冬以降、6年連続の前年割れである。(図表-4)

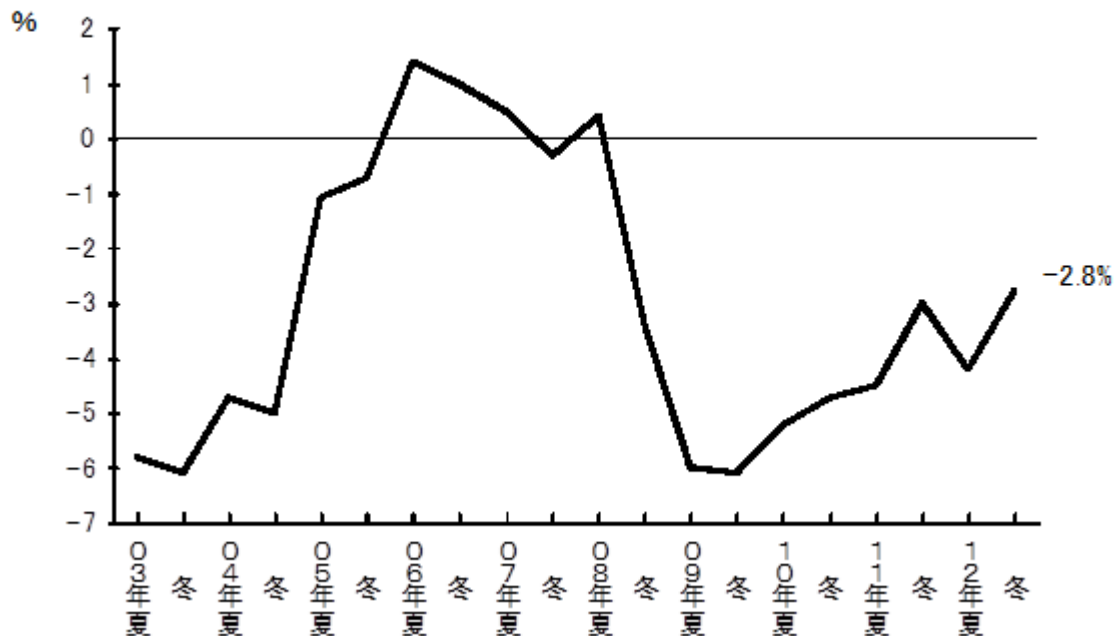
今冬の調査では年齢階層別に見ると、「30歳未満」が、前年を上回る受取額を予想しているが、「30歳代」「40歳代」「50歳以上」の年齢層では前年実績を下回る受取額を予想している。

また、勤務地別での受取予想額は、都内勤務者が 62.4 万円、県内勤務者が 46.3 万円であった。(図表-3)

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年冬、%)
平均		48.5	△ 2.8
30歳未満		33.8	4.6
30歳代		39.0	△ 2.7
40歳代		53.5	△ 3.3
50歳以上		59.6	△ 5.1
勤務地別	県内	46.3	△ 2.7
	東京	62.4	△ 4.4

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移



3 ボーナスの配分予定

ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位「教育・教養」で、以下「生活費の補填」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。この順位は昨冬と同じである。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(40.1%)、2位「ローン等の返済」(13.9%)、3位「教育・教養」(11.3%)で、以下「生活費の補填」(7.6%)、「買い物」(6.7%)、「旅行・レジャー」(5.7%)の順となっている。(図表-5,図表-6)

1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」の順位は毎季変わらず、配分割合も両方で受取額全体の半分位を占めている。従って、実質的に消費に回るボーナスは全体の半分以下になるものと思われる。

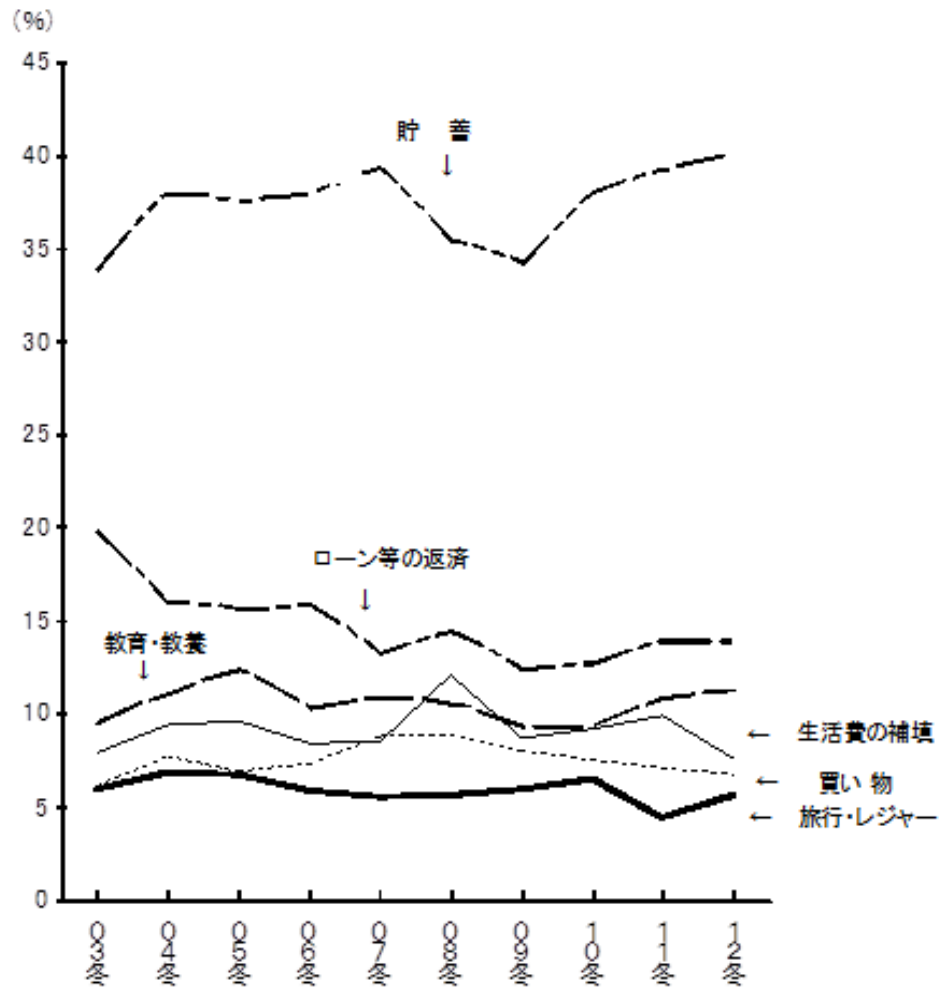
既婚・独身、男・女別で見ると、既婚・独身、男・女を問わず、まず「貯蓄」に回すと答えている。なかでも独身女性は貯蓄志向が高く53.2%を貯蓄に回すとしている。

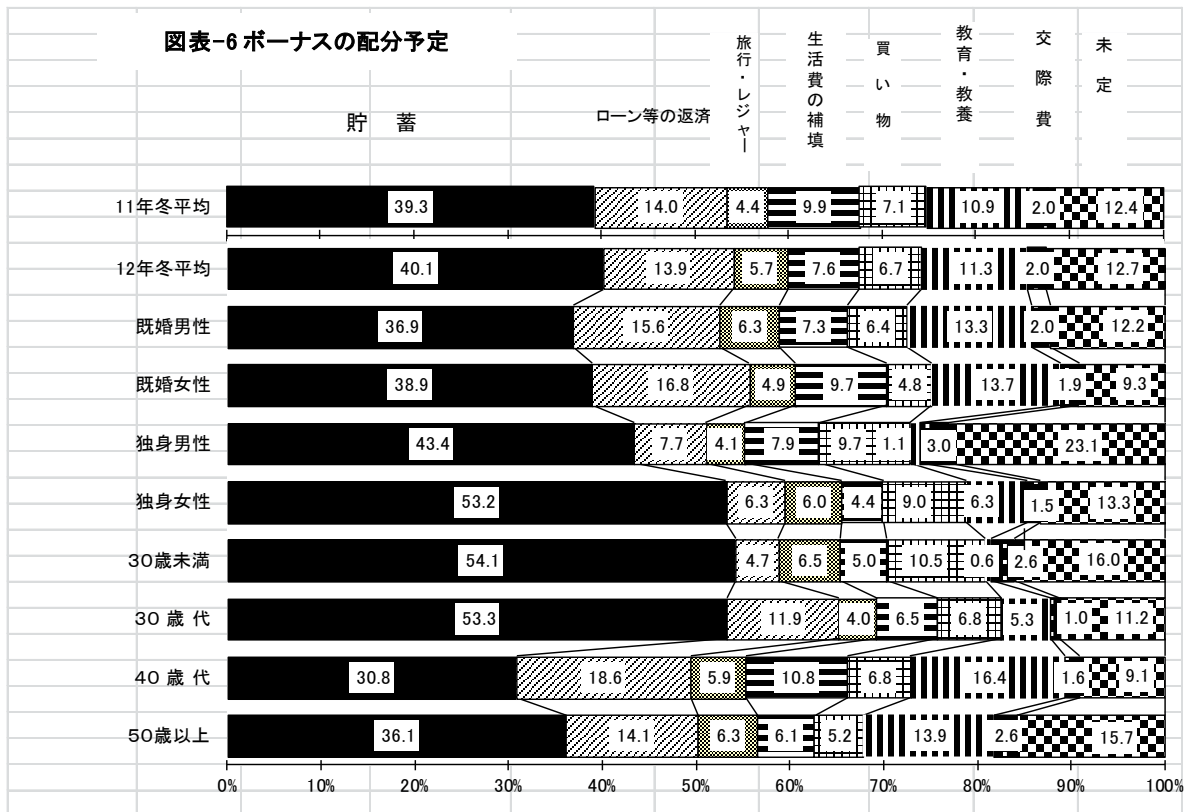
独身者は既婚者に比べて「貯蓄」が高く、次に「買い物」のウェイトが高い。既婚者は独身者に比べて「ローン等の返済」、「教育・教養」が高い割合を占め、独身・既婚それぞれの特徴を表わしている。

年齢別で見ても、全年齢層において配分の一番は「貯蓄」である。なかでも30歳未満は貯蓄志向が高く54.1%を貯蓄に回すとしている。

貯蓄以外の項目では、30歳未満の年齢層が「買い物」に、30歳代・40歳代・50歳以上は、「ローン等の返済」が高くなっている。

図表-5 ポーナスの配分予定の推移





4 貯蓄の内訳

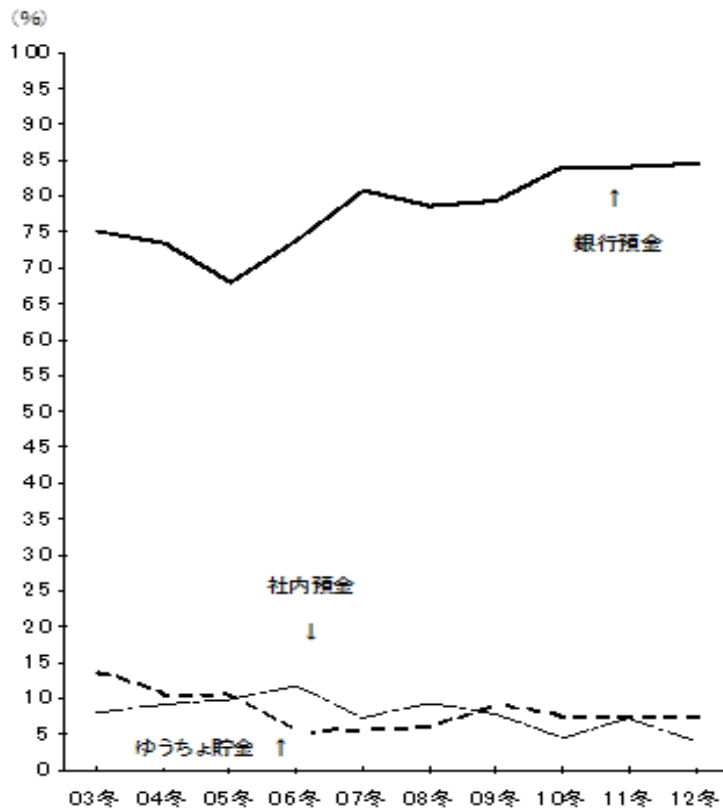
貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.8%、「ゆうちょ貯金」7.5%、「社内預金」4.0%の順となっている。この順位は昨冬と同じである。また、この3項目で全体の 96.3%(昨冬 98.7%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の 1.1%(昨冬 0.2%)であり、リスクの伴う金融商品は、依然として低調である。

例年と変わらず、ボーナスの貯蓄は預貯金が中心で、この3項目で全体の 96.3%(昨冬 98.7%)を占めている。(図表-7,図表-8)

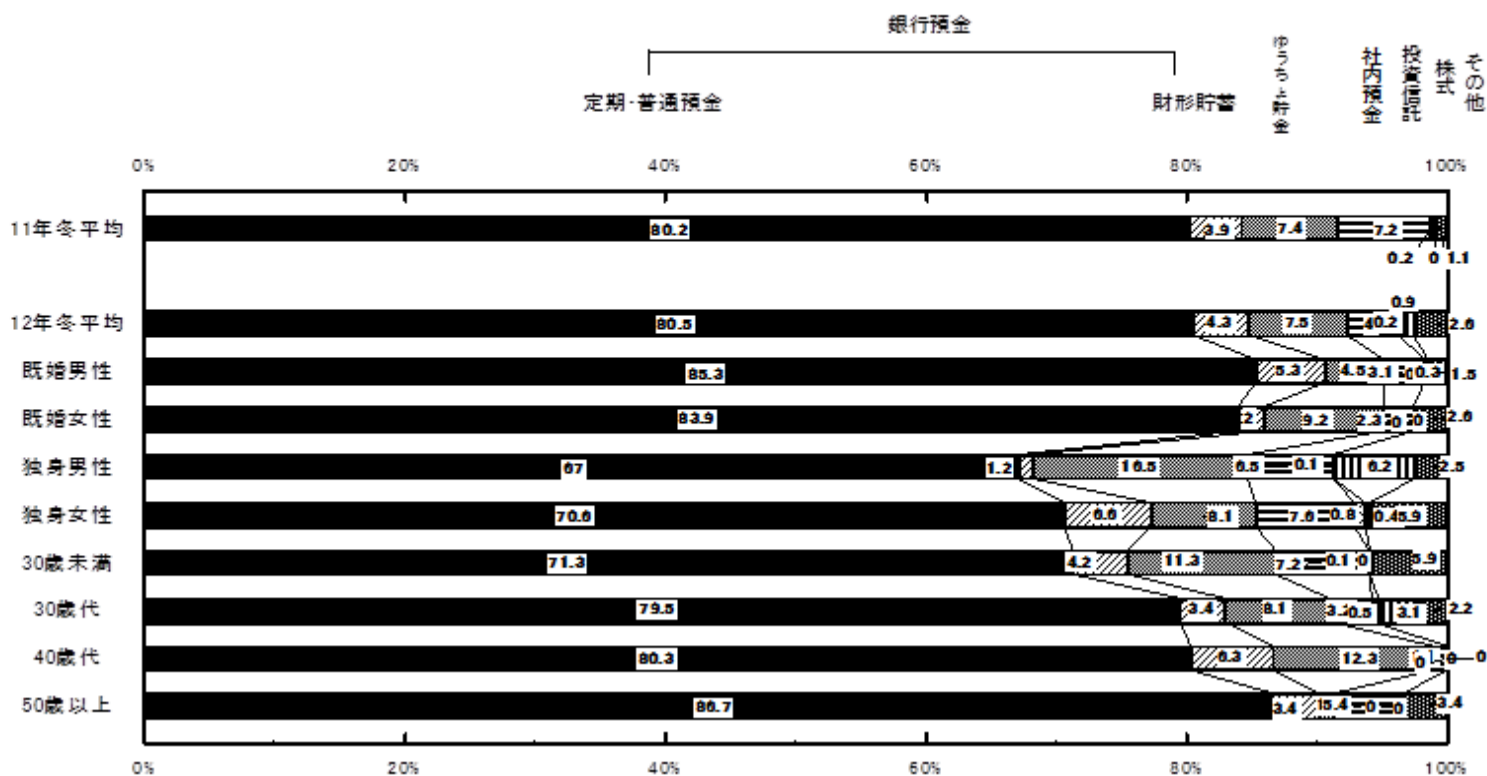
預貯金以外の金融商品としての「投信・株式」は全体の 1.1%(昨冬 0.2%)とリスクの伴う金融商品は全くと言っていいほど低調である。

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別でも、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。銀行預金以外では、「ゆうちょ貯金」が関心を得ているが、「投信・株式」については殆んど関心を得ていない。年齢別でも、各年齢層で「銀行預金」が一番高い。銀行預金以外では、「ゆうちょ貯金」が30歳未満・30歳代・40歳代に関心を得ており、50歳以上では社内預金が支持されている。

図表-7 貯蓄の内訳推移



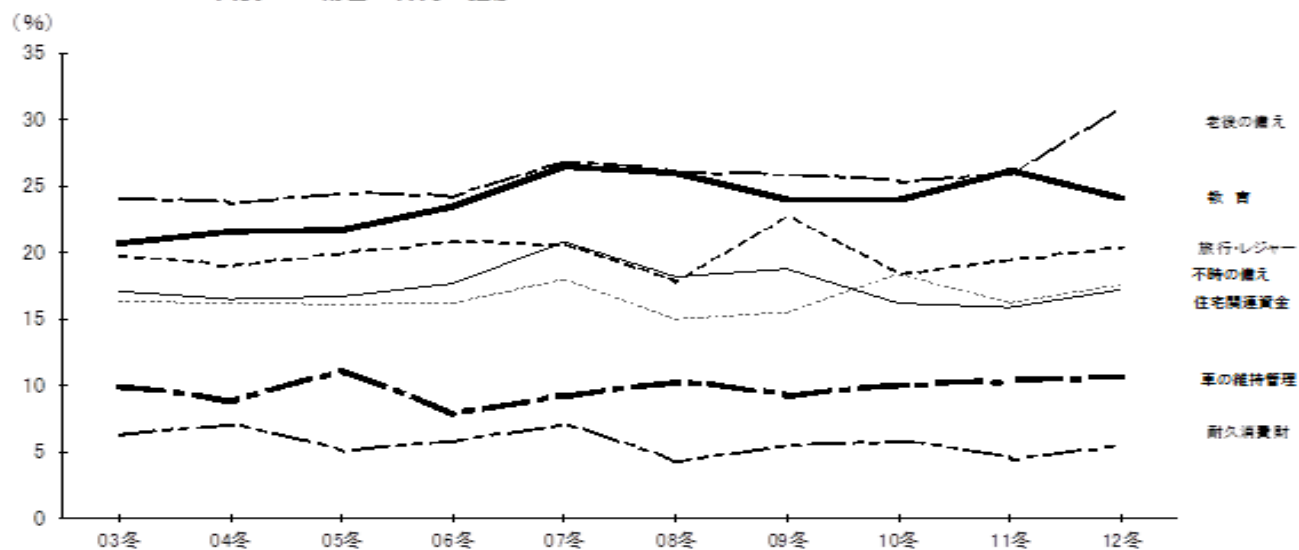
図表—8貯蓄の内訳



5 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位「住宅関連資金」となった。

図表—9 貯蓄の目的の推移

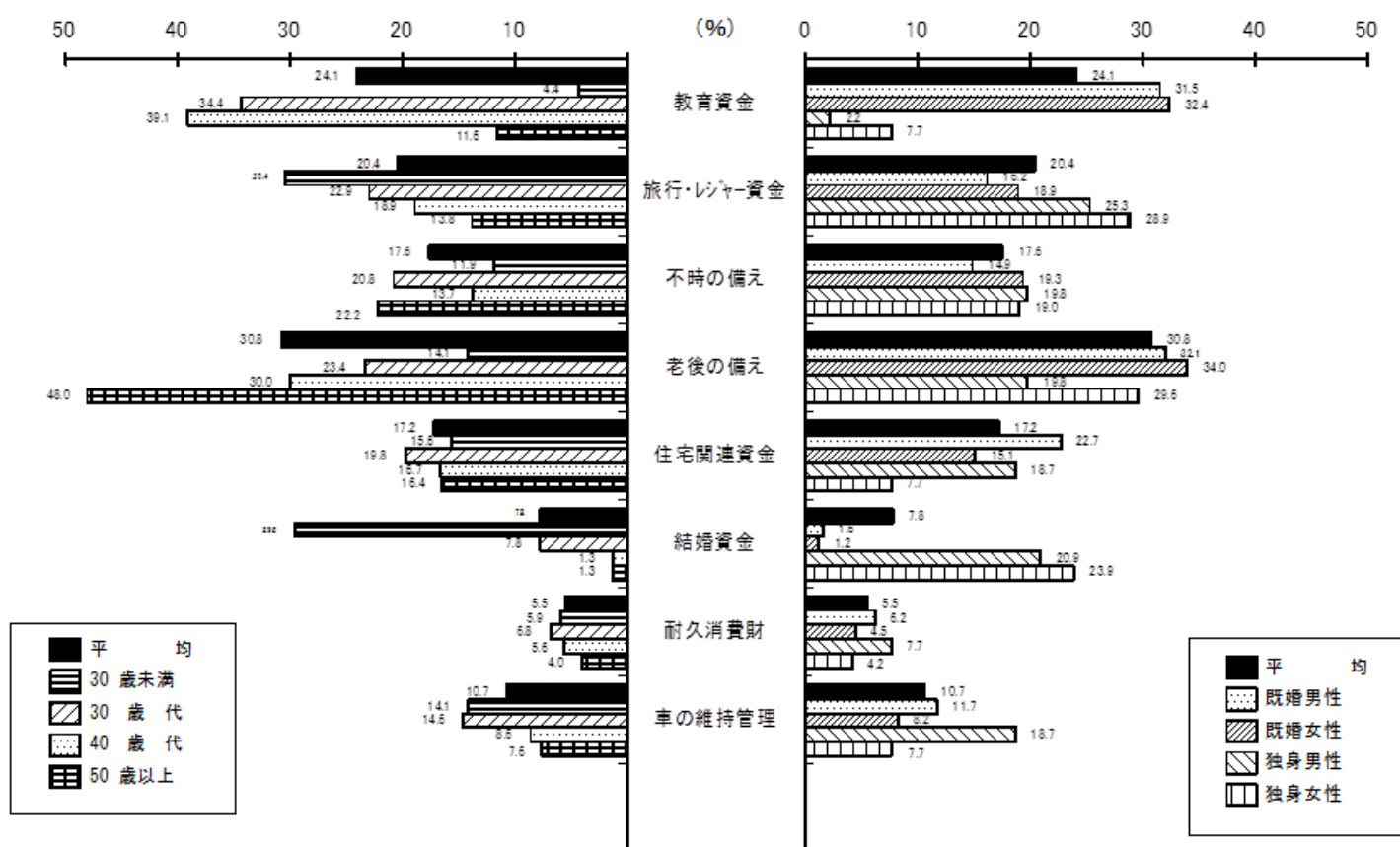


貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」30.8%に続き、2位「教育資金」24.1%、3位「旅行・レジャー」20.4%、4位「不時の備え」17.6%、5位「住宅関連資金」17.2%となった。以下「車の維持管理」、「耐久消費財」の順である。(図表-9)

年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(30.4%)、30歳代・40歳代は「教育資金」(34.4%・39.1%)、50歳以上は「老後の備え」(48.0%)が他の年齢層に比べそれぞれ高く、各年代のライフスタイルの相違が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性・女性は「老後の備え」(32.1%・34.0%)、独身男性は「旅行・レジャー」(25.3%)、独身女性は「老後の備え」(29.6%)を、それぞれ貯蓄目的としてトップに上げている。(図表-10)

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



注)左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

6 購入希望品目

購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「くつ」が上位を占めた。その他4位「鞆・ハンドバッグ」、5位「子供服」、6位「家具・インテリア」、7位「パソコン」、8位「化粧品」、9位「デジタルカメラ・ビデオ」、10位「電話・携帯電話機」となった。

ボーナスで買いたいもの(複数回答)上位は、「婦人服」(15.5%)、「紳士服」(8.8%)の順である。

(図表-11)

既婚・独身、男・女別では、女性は既婚・独身を問わず、「婦人服」を買いたいもの1位にあげている。男性では既婚・独身男性とも「紳士服」が1位である。この傾向は、昨冬も同様であった。

				(複数回答、単位：%)			
全 体				既 婚 男 性		既 婚 女 性	
	10冬	11冬	今冬				
婦 人 服	14.3	16.2	15.5	紳 士 服	11.4	婦 人 服	15.2
紳 士 服	10.1	11.2	8.8	婦 人 服	10.4	子 供 服	10.2
く つ	7.3	8.0	7.5	子 供 服	8.8	靴・ハンドバッグ	6.6
靴・ハンドバッグ	5.0	5.5	7.4	家具・インテリア	6.8	家具・インテリア	6.1
子 供 服	6.8	8.0	7.1	く つ	5.2	パ ソ コ ン	6.1
家具・インテリア	6.9	6.1	6.4	独 身 男 性		独 身 女 性	
パ ソ コ ン	6.2	5.6	5.9	紳 士 服	24.2	婦 人 服	36.6
化粧品	3.2	3.9	4.5	く つ	9.9	靴・ハンドバッグ	15.5
デジタルカメラ・ビデオ	4.1	3.2	4.3	パ ソ コ ン	9.9	く つ	14.8
電話・携帯電話機	2.4	4.1	4.2	カー用品	9.9	化 粧 品	12.7
				スポーツ用品	9.9	パ ソ コ ン	4.9

7 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

直近半年間の暮らし向きに対して今後半年間の見通しは、「収入」面では減少傾向。「消費支出」面では縮小傾向、「生活全般」では悪化傾向であることが見てとれる。(図表-12)

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答割合は10.4%で、半年後の先行きについての「増えそう」との回答は7.0%で、比較した現在の実感では3.4ポイント減少。一方「減った」は27.5%で、半年後の「減りそう」は29.3%で1.8ポイント増加し、ともに収入は減少傾向であることが窺える。

(2) 消費支出

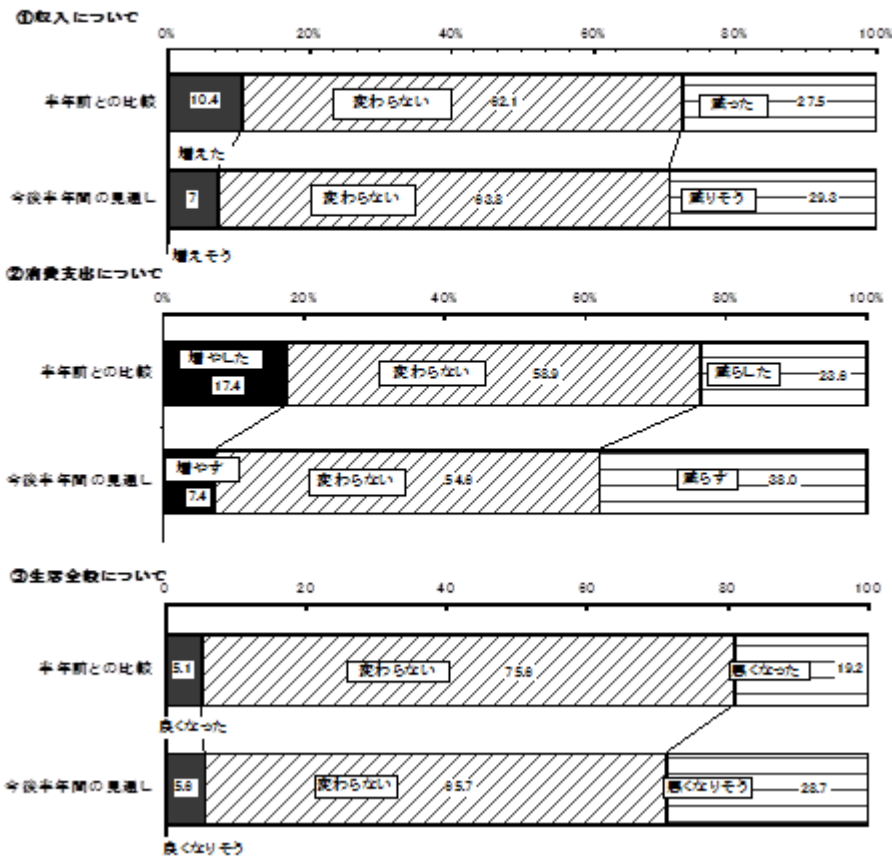
半年前と比べ、支出を「増やした」との回答割合は17.4%で、半年後の先行きについての「増やす」との回答は7.4%で、10ポイント減少。一方「減らした」は23.6%で、半年後の「減らす」は38.0%で14.4ポイント増加し、家計支出は先行き縮小傾向が予想される

(3) 生活全般

直近半年間の暮らし向きについては、「生活全般」において「良くなった」が5.1%で、半年後の先行きについての「良くなりそう」との回答は5.6%で、0.5ポイントの若干の良化予想。一方「悪くなった」は、19.2%で、半年後の「悪くなりそう」が28.7%で、9.5ポイント増加し、生活全般の暮らし向きは悪化傾向にあることが予想される回答となった。

(高橋 廣)

図表-12 暮らし向きの実感と今後の見通し



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	18	70	109	111	308
既婚女性	13	52	90	89	244
独身男性	40	29	14	8	91
独身女性	64	41	20	17	142
計	135	192	233	225	785

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2012年10月10日～12日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	785人
有効回答率	78.5 %

